

チームオレンジ ～ このまちで自分らしく生きていく ～



1.基本情報(令和6年4月末現在)

市・町名	対馬市上県町		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
2,688人	1,309人	48.7%	157.71km ²

2.チームの概要

チーム名	よっていかんねえ		
開始時期	令和 6年 2月 ～		
実施主体	☐ 市町 ☒ 地域包括支援センター ☒ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他 ()		
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員(対馬市地域包括支援センター)		
メンバー構成	認知症サポーター、認知症当事者、家族(支援者)、認知症地域支援推進員 地域包括支援センター 他		
活動頻度	月2回 第2・4金曜日 10:00～12:00		
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☐ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの基本について	☒ 3つの基本を満たしている ☐ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☐ 市町からの委託 ☒ 市町からの補助 ☐ 会費・参加費 ☐ その他 () ※上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☐ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()		

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

・カフェ立上げの8年前より、高齢者の集う場所、憩いの場として地域の住民に親しまれていた「よっていかんねえ」を、家賃等を市から支援してもらい、認知症カフェとして平成30年6月より立ち上げた。カフェへの参加は、以前より運営にあたっていた、主婦、看護職等のスタッフの声掛けによるものが大きく、また、場所は上対馬町の中心部で、近隣に郵便局や警察、包括支援センター等行政の窓口もあり、情報交換を頻繁に行う事が出来た。関わっている皆さんに令和6年1月開催の「ステップアップ講座」を受講していただき、チームオレンジとしての設置に至った。

4. 活動内容

- ・認知症カフェ「よっていかんねえ」の運営
- ・地域住民のつどいの場の提供
- ・地域における認知症が気になる方の見守り、孤立しないための声かけ、相談相手
- ・必要時地域包括支援センターへの相談

5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

「よっていかんねえ」はカフェ活動以前より、惣菜や野菜の販売を行っていました。カフェ発足後も、継続していただき、独居の男性等を惹きつけていますし、最近は手作りパンの販売もあり、若い主婦層や乳幼児も顔を見せ、まさに老若男女の集いの場となっています。気になっている方々への声掛けは、顔を会わせることが多いスタッフの方々が自ら行ってくださり、認知症の方にとどまらず、閉じこもり対策にも一役買っていたいでます。

6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

対馬市は3圏域それぞれにおいて、チームオレンジの立ち上げを計画している。北圏域に置いて、県すこやか財団 オレンジチューター、県長寿社会課より来島いただき、令和6年1月に、介護予防Gやサロンの参加者、郵便局、病院、介護事業所の職員等を対象に、市内で初となるステップアップ講座を開催し、計54名の参加をいただいた。

7. 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

・地域の一般住民や事業所から、カフェスタッフへのワンクッション置いた包括への相談は以前より増加傾向にあり、より深い情報を得ることができるようになった。

【課題】

・カフェは地区の中心部にあり、参加しやすい場所ではあるが、自力での参加が困難な方もおられる。送迎等があり、気軽に参加できる環境の整備が必要。また、北部地区の「認知症」に関する理解はまだ十分とはいえず、各世代、特に若年者への働きかけが必要。高齢者本人に対しても繰り返しの知識の提供が必要。

8. チームのアピールポイント

誰でも気軽に立ち寄れて気軽におしゃべりができる、アットホームなカフェを拠点としたとしたチームオレンジです。

9. 今後の活動について

北部地域でのチームオレンジを複数にしていくため、まずは、上対馬町の中心地域に拠点となるカフェ開設を目標としていきたい。